



「総合的な学習の時間」を考える ②



「いきたた」を学ぶ「総合的な学習の時間」。「ひと」（生き様、その人の思いなど）というゴールに至る上で、「もの」や「こと」（行い）を介して追究していくことが考えられます。

左は、「福祉」をテーマにした「『いきたた』の学び」の模式図です。「総合的な学習の時間」では、往々にして児童が個々に心惹かれたものから探究が始まります。車椅子、介助犬、点字、手話などの「もの」がスタートになることが多く、それらの「もの」から、「バリアの克服」「意思の疎通」などの「こと」（行い）が見えてきます。さらに、その「こと」を追究する中で、「共に生きる」という、その人々の「思い」が見えてくるという構図です。難しい内容かと思われませんが、実践例を基に説明します。

第4学年「みんなにやさしい人と町」の実践を基に…

「個々のめあて」を追究するのが本筋ですが、小学校の、特に中学年の段階では、「一斉学習」での探究が行われます。左のパラサーファーを招いての学習では、講師の方のお話を通して「ひと」を追究し、「もの」といっては失礼ですが、併せて「介助犬」の追究も行いました。真ん中の車椅子体験の学習では、「バリアを克服する」という「こと」の追究、右の手話の学習では、「もの」を介して「意思の疎通」という「こと」を、体験的に学びました。



「ひと」と「もの」の追究



「こと」の追究

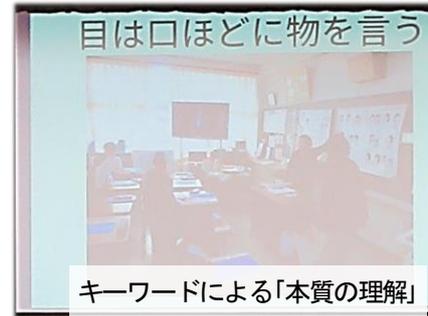


「もの」の追究

聞き取り、体験などによってたくさん集められた「情報」は、整理、集約したくなるものです。つまり、先の号で述べた「整理・分析」というプロセスを経て、「本質の理解」が図られるのです。そうすると、その「価値ある学び」は、だれかに伝えたいもの、で、「まとめ・表現」というプロセスによって「発信」がなされるのです。



学習発表会は、格好の「表現」の場



キーワードによる「本質の理解」



「やさしさ」を表現した
手話の歌：「虹」